



避難訓練

5月24日 地震を想定した避難訓練を行いました

昭和58年5月26日、その日は澄み切った青空が晴れ渡る気持ちのよい日でした。私は高校2年生。ちょうど高校野球の春季大会で秋田市の県立球場（現在県立武道館が建っている場所にありました）で試合中でした。突然めまいがしたかと思うほどの縦揺れの後、スタンド全体が遊園地のアトラクションのように波打って揺れ始めました。グラウンド上で試合をしている選手や審判は一呼吸遅れて地震に気づき、試合を止めたことを覚えています。試合はその後続行され、敗

れてしまいましたが、当時電車を使って参加していた

こともあり、全ての列車がストップしたため満員になった路線バスに乗ってやっと帰ってきたことなどが昨日のこのように思い出されます。

その地震では、男鹿半島に遠足に来ていた合川南小学校の子どもたちをはじめ、沿岸部にいた人々に多数の犠牲が生まれました。

それから28年後、東日本大震災が発生しましたが、現在の中学3年生は1歳でしたから、協中生は記憶に残る大きな地震を経験していないことになります。今年の能登半島地震は日を選ばず正月元旦に発生しました。今回は「避難訓練があるぞ」とわかっていたの対応でしたが「休み時間」など心の準備ができていないときにも対応できるための「訓練」の必要性を感じています。そして、このような学校での経験を、家庭にいるときにもぜひ生かして、自分や家族の安全な避難につなげられたらと思います。



読書集会

5月27日 文化委員主催 読書の楽しさと魅力を発信

文化委員が企画と準備を行い、全校の皆さんに読書の楽しさと魅力を伝える読書集会が行われました。学校図書館の使い方を確認し、読書の世界へ誘うプレゼンテーション、読書クイズ、2年生の三浦悠貴さんによるミニビブリオバトルの演示など、すぐにでも読書をしたくなるような楽しい時間を過ごすことができました。

動画やゲームなど、たくさんのメディアコンテンツがあふれる現代ですが「本を読む」ことの大切さを改めて感じる事ができたひとときでした。

